

自分なりのウェルビーイングを実現できる生徒の育成

—養護教諭による健康力を高めるための実践を通して—

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 養護教育実践系

杉浦 なお実

中学生の心身の健康課題は複雑化・多様化しており、「自分なりのウェルビーイングを実現」していくことが喫緊の課題である。

養護教諭の行うストレス対処や生活習慣等の健康教育の実践、生徒保健委員会と協力して取り組む実践は、生徒の健康力向上に重要な役割を果たしている。

そこで、本研究は、中学1年生を対象に、養護教諭による身体的、精神的、社会的アプローチを通じた健康力を高める実践を行うことで、自分なりのウェルビーイングを実現できる生徒を育成することを目的とした。

その結果、健康に生活するための知識やスキルの取得、健康を保持増進しようとする意欲の向上にはつながったが、行動変容までには至らなかった。しかし、中学1年生における不登校、不登校傾向生徒の減少、保健室相談者や教職員間の情報共有が増えたことが成果として挙げられる。

養護教諭が連続的に関わり続けることにより、生徒が困った時に相談しやすい環境を整え、安心して通える学校となり、ウェルビーイングの土台を築くことができたのではないかと考えられる。